

スポーツツーリズムによる 地域活性化への アプローチ

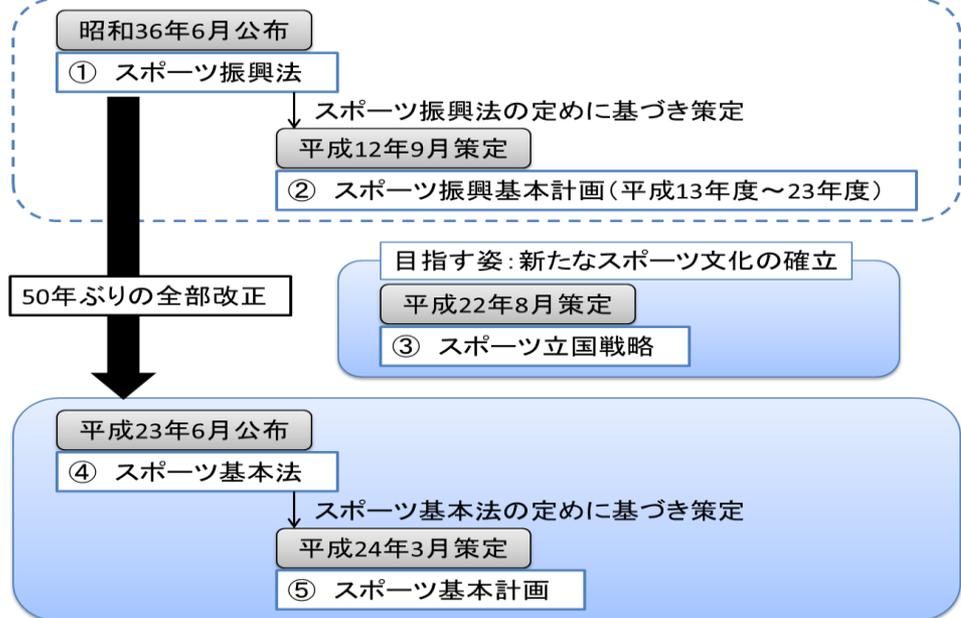
平成29年3月
鹿角市政策研究所

概要版

研究の背景、目的等

研究の背景	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少や地域社会の空洞化が問題となっている中、「スポーツ振興」の果たす役割は、健康の増進や体力の向上にとどまらず、地域社会の再生や地域経済の活力創造にも寄与するものとして期待が高まっている。 東山スポーツレクリエーションエリアの充実した施設環境やこれまでの多くの全国規模のスポーツ大会の開催実績などを交流人口の拡大と地域経済の活力再生にまで結び付ける必要がある。
研究の目的	<ul style="list-style-type: none"> 充実した施設環境などの本市の優位性を活かしたスポーツツーリズムを検討する。
研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> スポーツに関連する国の動向や他の事例、スポーツを支える側の市民意識調査や誘客のターゲットとなる都市部のスポーツ需要を調査するとともに、既存スポーツ大会の開催による経済波及効果を分析し、地域活性化に資する方策を考察する。

本研究での「スポーツツーリズム」



スポーツ大会や合宿等で市外から訪れるスポーツを「する」「観る」人などが、宿泊や飲食、買い物、また、そのついでに観光を行うことで地域が活性化し、さらにはスポーツを「支える」市民と交流することで市外の人に鹿角の魅力を伝え、そして市内も活性化するという新しい旅行・地域活性化のスタイル

研究内容の構成

- 序章(本研究におけるスポーツツーリズム)
- 1 スポーツツーリズムに関する国の動向
 - 2 スポーツの定義
 - 3 ツーリズムの捉え方

- スポーツを支える側の市民意識調査
- 1 市民アンケート調査結果

- 大都市部におけるスポーツニーズ調査事例
- 1 民間研究機関における研究結果

- 大会開催の経済波及効果
- 1 浅利純子杯争奪鹿角駅伝
 - 2 十和田八幡平駅伝競走全国大会
 - 3 全日本ローラースキー選手権大会
 - 4 全国ジュニアサマーノルディックスキー大会

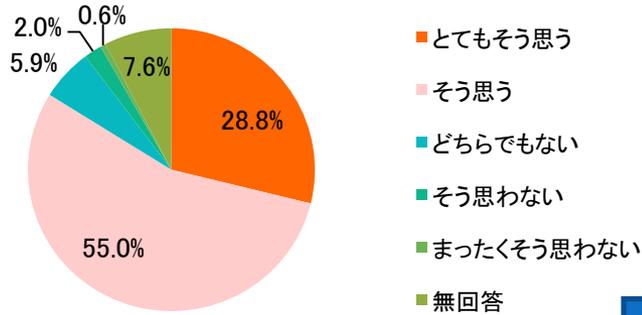
- スポーツツーリズムによる地域活性化の方向性
- 1 政策的な位置づけ
 - 2 ターゲットの設定
 - 3 企業等との共催
 - 4 スポーツツーリズムに係る推進体制

調査1 スポーツを支える側の市民意識 ～ 市民アンケート調査 ～

対象：700人、回収率70.4%

来訪のメリット

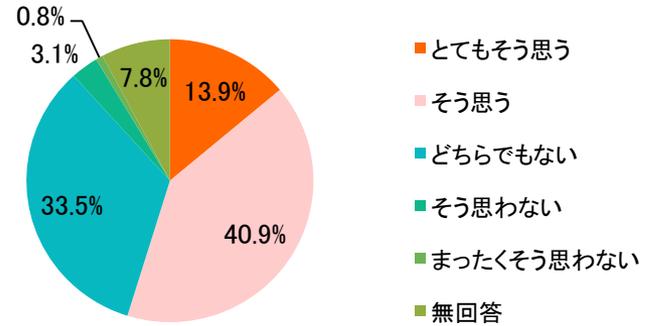
①全国からスポーツ大会等の参加者や関係者、応援者が来ることは鹿角にメリットがあると思う。



来訪者に対する好意

好感度は、5割前後

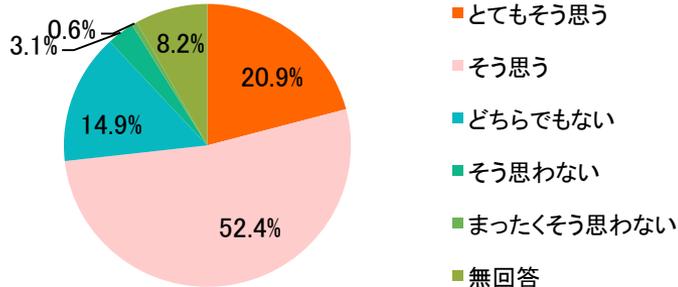
②全国から訪れるスポーツ選手や関係者、応援者に対して好感を持っている。



来訪者との交流

市民の歓迎の意識は高い

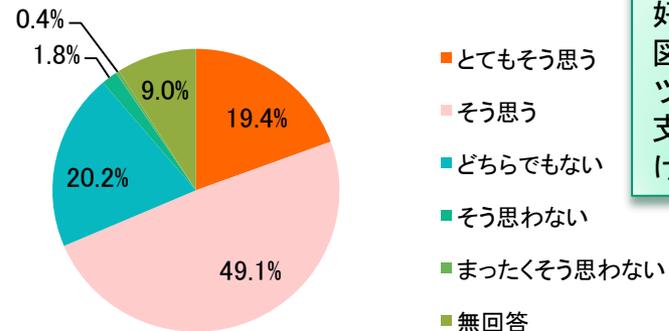
③訪れるスポーツ選手等と交流することは、市民にとって市外の文化や社会に触れることができる貴重な経験であると思う。



スポーツツーリズムへの支持

鹿角市がスポーツツーリズムを推進することを支持する。

市民と、訪れる選手等との交流機会を創出し、好感度の向上を図り、スポーツツーリズムへの支持をさらに広げる必要がある



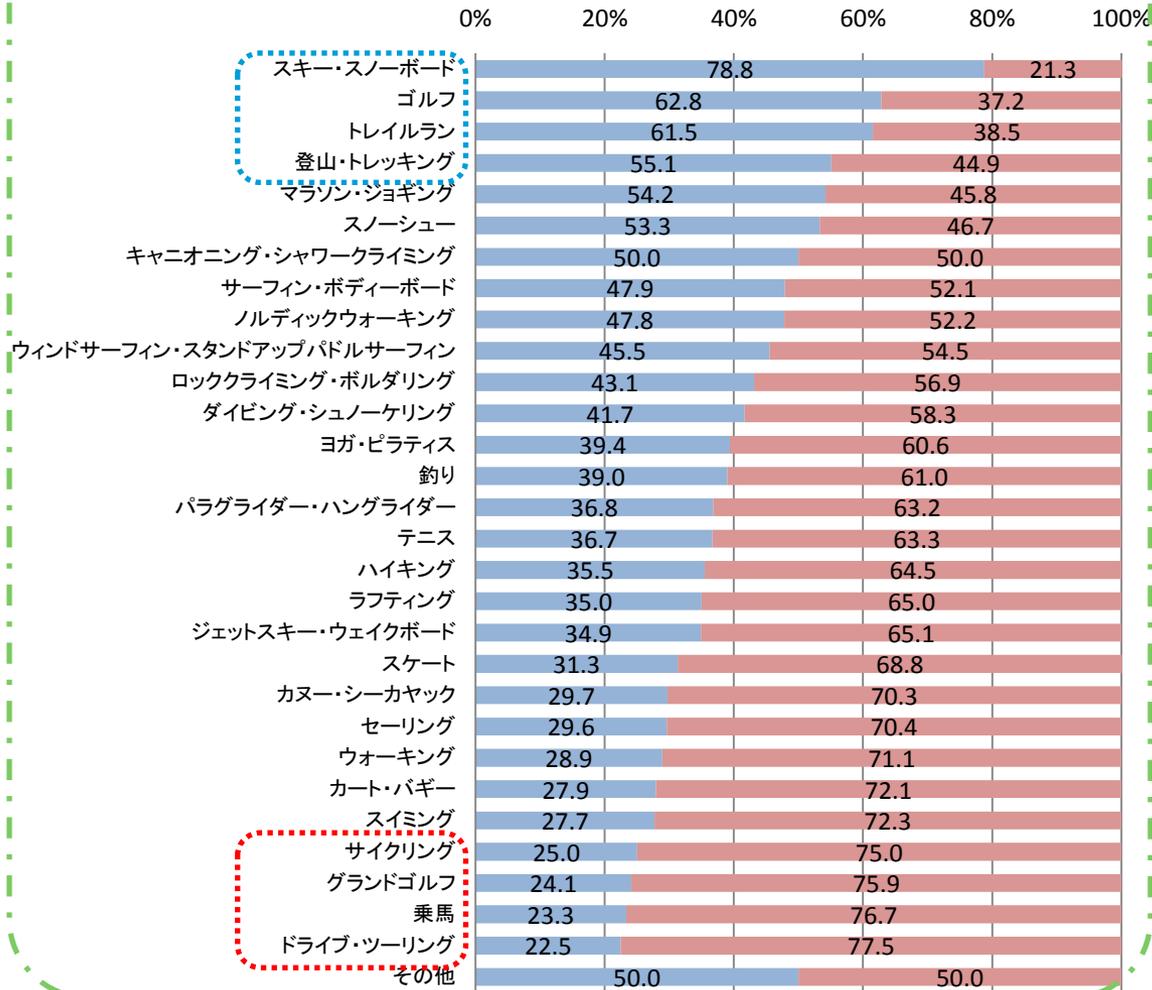
調査2 大都市部におけるスポーツニーズ ～ 民間研究機関調査 ～

旅行におけるスポーツの位置づけ

◆スポーツが主目的で旅行をするものは「スキー・スノーボード」「ゴルフ」「登山・トレッキング」

◆旅行が主目的で旅行をしながら併せて楽しむスポーツは「ドライブ・ツーリング」「乗馬」「グランドゴルフ」「サイクリング」

■ スポーツが主目的 ■ 旅行が主目的で、ついでに旅先でスポーツも楽しみたい



スポーツを共に楽しむ相手

	ウォーキング	ハイキング	サイクリング	スキー・スノーボード	登山・トレッキング	マラソン・ジョギング
1人で	45.5	18.4	33.4	8.4	21.8	62.5
友人・知人	39.2	56.4	50.6	68.4	59.6	34.0
家族	53.4	67.6	52.8	60.3	55.8	35.4
スポーツ仲間	2.1	4.4	4.7	10.0	10.5	12.5
その他	0.7	0.3	0.3	0.6	0.4	0.0

・スポーツを主目的として旅行をする場合は「スキー・スノーボード」が上位で、専門性的な競技が並び、個人や友人、知人で実施されている傾向がある。

・「ウォーキング」は、旅行が主目的となるが、特に高齢者層に人気が高く、旅行先で気軽に家族で楽しむ傾向が見られる。

近年のジョギング・マラソン人口の高まりを踏まえると、観光資源が豊富な本市の場合、競技スポーツだけでなく、より幅広いスポーツで誘客につなげられる潜在力が高いと考えられる。

調査3 スポーツ大会の経済波及効果 ～ 主要4大会 ～

経済波及効果

	浅利純子杯 (1)	十八駅伝 (2)	ローラスキー (3)	サマノル (4)	計(※)
大会費用(千円) ①	1,798	2,773	3,039	6,053	13,663
最終需要額(千円)	1,267	9,297	8,089	12,346	29,877
直接効果	536	7,820	6,802	9,618	23,644
経済波及効果(千円) ②	905	14,678	12,812	17,683	44,353
雇用効果(人)	0	2	2	2	6
大会費用に対する費用対効果(倍) ②/①	0.50	5.29	4.22	2.92	3.22

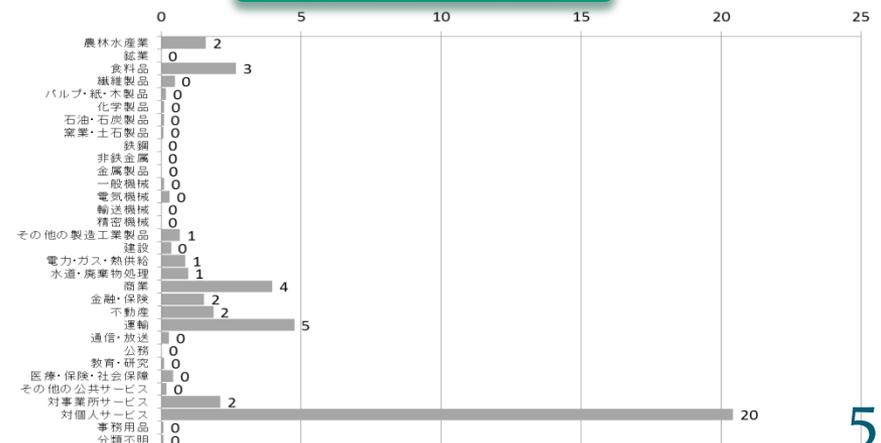
大会の正式名称は次のとおり。

- (1) 浅利純子杯争奪第10回鹿角駅伝
- (2) 第69回十和田八幡平駅伝競走全国大会
- (3) 第27回全日本ローラスキー選手権大会
- (4) 2016全国ジュニアサマノルディックスキー大会

・平成28年度に実施した4大会の開催が市内にもたらす経済効果を推計すると約4,400万円となり、大会費用に対する費用対効果は3.22倍と推計される。
 ・最も効果が及ぶのは宿泊業である。宿泊業はすそ野が広いので、スポーツツーリズムは市内経済の活性化に大きく寄与するといえる。

※端数処理の関係で4つの大会の合計値と異なる場合がある

部門別の生産誘発額



スポーツツーリズムによる地域活性化の方向性

(1) ターゲットごとの方向性

A層	競技力向上が目的	日本代表クラス・社会人などの団体	<ul style="list-style-type: none">・スキー競技は自然環境や施設環境が整っていることにより成り立つスポーツであり、求められるのは専門性であるので、競技に適したスキー環境にある本市は、今後さらに競技力向上に特化することが有効である。
B層	競技力向上が目的	大学・高校等の団体	<ul style="list-style-type: none">・また、A層の協力を得てこれまでも開催してきた全日本スキー連盟と連携したジュニア育成を拡充し、広く市外からの参加も得ることで、スキー競技の聖地としての知名度を高めていくことも期待できる。
C層	スポーツが目的	サークル・同好会	<ul style="list-style-type: none">・スポーツによる市内消費を高める観点から、これまでのA層やB層を対象とした合宿誘致に加えて、誘致対象をC層まで拡大することを検討する。・競技人口の減少が進んでいることを考慮すると、「スキーと駅伝」競技の優良な合宿地としての評価と信頼を対外的に獲得しながら、「スポーツは複数の観光目的の一要素に過ぎない」と考える個人、団体客にまで、合宿誘致のターゲットを拡大していくことは目指すべき方向性である。
D層	旅行が目的	旅行のついでにスポーツも楽しむ個人や家族	<ul style="list-style-type: none">・一般向けのマラソンやジョギング、ウォーキングイベントについては、旅行目的になりうるスポーツであり、D層がターゲットとなる。(例)十和田八幡平国立公園の大自然をフィールドとした、温泉・食を楽しむスポーツ・駅伝のまちとしての知名度向上や、全国的なマラソンブームを背景として、底辺拡大にもつながるイベントの開催に向けて、既存大会の見直しなども含めて検討する必要がある。

スポーツツーリズムによる地域活性化の方向性

(2) 大会の運営方法

○現状

・これまで、国民体育大会など全国大会では、市民ボランティアスタッフの参画も市が主導して行ってきたところであるが、大会の終了とともにスタッフの関わりも終わっている。



○対策

(選手との交流機会)

・今後は、一部の競技関係者との関わりに留まらず、多くの市民と選手などとの交流機会を増やすことによって、スポーツを支える人の喜びを広げ、スポーツツーリズムの受け入れ態勢の向上を図る。

(企業との連携)

・観光資源がある本市にとって、スポーツ目的の来訪を契機に自然・景観や温泉・食などを楽しむ観光への誘導を図ることが主目的であることを踏まえ、**スポーツ関連企業**を始め資金力と全国的なネットワークを有する地域外の企業との連携などにより、他との差別化を明確にし、スポーツを楽しむフィールドへの誘客を促進する。

(例) (企業名) + 大会名やイベント名 → ○○○八幡平頂上ウォーキング&マラソン

スポーツツーリズムによる地域活性化の方向性

(3) スポーツツーリズムの推進体制

- ・スポーツツーリズムの受け入れ規模が拡大すると、合宿等の来訪者と地元競技団体とのスポーツ施設を巡る競合や、観光受入れと大会等による配宿の競合などが生じるものと考えられる。また、大規模な大会の開催には地元企業等の協賛金を要する場合もある。さらには、大会やイベントなどの円滑な運営に向けて競技役員や多数のボランティアの確保のほか、リピーターの確保に向けた地域全体による利便性の提供・おもてなし等も必要となる。
- ・今後本市がスポーツツーリズムに取り組むにあたっては、スポーツが地域活性化につながるよう意識して活動すること、すなわち交流人口の視点を重視して取り組むことが重要であるため、来訪者に対し、スポーツや観光と分けることなく訪れやすい地域になるための環境の構築が第一歩目となる。
- ・その上で、循環型の地域経済構造を強化していくためには、将来的に鹿角版DMOにスポーツ関係者も取り込むことで、本市の観光スポーツのポテンシャルを地域活性化に大きく活かすことができるものと期待できる。

